3月17日(日)

色々使える

銀だら切り落とし

1パック600g

~~通常1,500円~~→

980円(税込)

先日市場を歩いている時、銀だらの切り落としを見つけ、お世話になっている業者の方に、「どれくらいある在庫？」と問うと、「今月決算月じゃけぇ売らにゃ～いけんのよ～。」と返答が。よし！キター！このどうしても売らんといけん状況！これは値段ギリギリ迄下げられると確信(笑)。しかも銀だらはめちゃくちゃ美味しいし、煮付け、フライ、塩焼き、味噌漬け、ホイル焼き、南蛮漬け、まぁ何をしても良しの魚なんです！切り落としでも全然美味しいんです！

そんな事を考えていると「祐宗さ～ん、悪い顔になってますよ～(笑)」と言うじゃないですか！ただ、どう売るか？考えてただけなのに。あとどう安く仕入出来るか？考えてただけなのに～(笑)。

という事で、今回銀だら切り落としを600g入980円で販売致します。通常だと1500円位になる銀だら切り落とし。切り落としでも希少なんで中々価格も下がりません。

そんな銀だらを色々な料理に試して下さい。

西田鮮魚店　店長　祐宗　優司

ジョイフル

西田鮮魚店 ☎72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489（旧庄原市内はご自宅に配達）

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

『3月3日 ひなちらしと桂文枝と小4の孫娘と』

鮮コーポレーション㈱　代表取締役会長　西田　昌史

3月3日に市民会館で『桂文枝の傘寿記念落語会』なるものがあった。悦子と見に行き、そのことを書いた。

3月10日の折込チラシの裏には、それが載るはずだった。

ところが、社内のＬＩＮＥを見ていると、12日が第2火曜日で『魚の日』。裏面にはその広告が載ると書かれているではないか。「忘れとった。せっかく書いたのに」仕方ない。広告優先だ。そのまま、一週間後に載せてもいいのだが、それでは鮮度が落ちる。

基本、この手紙は、掲載（というほどのものでもないが）する日曜日の直前の月曜日に書いている。書き置きはしない。書きかえよう。といって、全部書きかえるのも…。ということで手直しですませることにした。

今年の『ひなまつり』は日曜日。毎年、ひなまつりは『ひなちらし』だ。忙しくなるだろうな。

翌日、3月4日の月曜日。事務所で、ひとり遅い昼食をとっていた越道副店長に聞いた。

「ひなちらし、どうだった？」

チラシを見てくださったお客様ならわかるだろうが、今年の『ひなちらし』は、ごはんを工夫したのだそうだ。

原さんがポップに書いていた『網えび』の料理法にヒントを得た越道さんが、ごはんに網えびを混ぜようと提案して、それはいいと採用。さらに、女の子の節句なのだから、少し甘みがほしい、なら、『かんぴょう』を刻んで入れようということになったらしい。そこに、奥原さんが『ごま』も欲しいと言った。けど、これは賛否両論。最終的にはプツプツとした食感がいいんじゃないかということで加えたそうだ。

結果、大正解。インスタに「おいしかった」とアップされていたと報告してくれた。

「で、何個売れたの？」と聞く私に「３６０個です」

「へぇ～～～、そりゃぁ忙しかったじゃろ」

「まぁ。昨日は人が少なかったし…。がんばりました。」

作り置きをしない店だから、たいへんだ。さすがに、手がまわらなかったので『お届け便』は途中から、お断りしたと申し訳なさそうに言葉をそえた。それでも27個、お届けしたとも。えらい‼

そんな店の忙しさをよそ目に、ジョイフルの案内所でチケットを買っていた私は悦子と2人で、文枝を見に行った。

ロビーに人はいっぱいだったが、当日券の売り場もあった。５００人くらい入っていたらしい。

『桂文枝』ではわかりにくい。『桂三枝』なら満員御礼だったのじゃなかろうかと思ったりした。

文枝を見た悦子が、「三枝によく似とるね」と言ったほど、落語にあまり興味のない人にとって、三枝は落語家というより『新婚さんいらっしゃい』の司会の『桂三枝』のイメージが強い。『桂文枝』を襲名、などと言われても「何、それ」で終わりだろう。

その『新婚さんいらっしゃい』だが、同一司会者によるトーク番組の最長放送としてギネスに登録されたと文枝が言った。51年だそうだ。そのとき、私は反射的に自分の年から51を引き算した。『新婚さんいらっしゃい』が始まったとき、文枝が29才、私は20才。「そうかぁ、若かったなぁ」。いや、文枝じゃなくて自分が。

とはいえ、さすがに文枝は最高の落語家だった。

4日の中国新聞に『会の初めに傘寿のあいさつをした桂文枝は日課の散歩にちなんだ小話で、さっそく会場を温めた』と紹介してあったが、傘寿は黄色を身につけるものだと、レモン色のスキッとした羽織をはおって登場した文枝は、一瞬にして会場を温めた。

文枝は創作落語を得意とする。この日も『赤とんぼ』と『思い出は記憶の中にだけ』の二席を披露した。それぞれ、30分から50分の噺。けっこうな尺だ。

『あかとんぼ』

歌は世につれ、世は歌につれ。童謡も…。

今どき暮らしの中で童謡を聞くことはなくなった。でも、童謡酒場というものがあり、会社の童謡好きの部長にむりやり連れて行かれて…。

なつかしい童謡が次から次へ出てくる。

ふるさと、春の小川、卯の花、うみ、里の秋、たきび…。

懐かしくもあり、おかしくもあり。隣の席の女性は、文枝に合わせ口ずさんでいた。

『思い出は記憶の中にだけ』

これは刺さった。あるある。この日のお客のほとんどが…。

舞台は『老人ホーム』。テーマは『断捨離』。主な登場人物は88才の、部屋にベッドとイス以外に何も置かない『ミニマリスト』（初めて聞いた）の男性と、その反対の80才の『物を捨てられない』男性。因みに私は捨てられない方の男。

噺の中にシルバー川柳がいくつも出てくる。思わず笑う。笑いながら、心のどこかで、「わしのこと？」

うろ覚えだが3句あげてみる。正確ではないが、こらえてほしい。仕方ない71才だ。

カード増え　暗証番号　裏に書く　（危ない危ない）

観光地　名所よりも　トイレどこ？　（わかる）

つまづいて　ふと見た床に　段差なし　（哀しい）

福山からタクシーで庄原へ。

「普通は、車からの景色の変化を楽しむんだが、山ばっかしで…、遠かった～～～」

文枝が最初にそう話して笑わせたが、庄原にいて、一流の芸に触れることができるありがたさ。

落語会が終わって、いっせいに席を立つお客様のなかに、青山のじいちゃんとばあちゃんと一緒に来ている梨子を見つけた。西田のじいじとばあばに気がついた梨子は、にっこり。

「おもしろかったか？」「うん、おもしろかった」

梨子は、ついこの前、曾じいちゃんが亡くなったが、4世代、9人家族の中で育つ。曾じいちゃんと曾ばあちゃん、そしてじいちゃんとばあちゃん、4人の年寄りと、暮らす少女は、文枝の落語にも何かを感じる力があるのかもしれない。

「なにがいちばんおもしろかった？」

小4の孫娘に聞いた。

「う～～ん」。すこし考えて「わさびのぶん」

文枝の23人の弟子の中でいちばん若い『桂貴文』という前座の噺だ。『新入りの弟子が、ロシアンルーレット風にわさびの入ったたこやきを師匠に食わせてしまう』というわかりやすい噺。ちょっと安心した。

「川柳がおもしろかった」とか言えば、私のことだ、この娘は天才かと思うかもしれない。

爺ばかは恐ろしい。

２０２４年３月17日